


④ 8.2×230 ⑤ 0.6×147 ⑥ 1.312×6
 ⑦ 3.26×3

- ③ 14名-----73%
 ④ 14名-----73%
 ⑤ 19名-----100%
 ①~⑤ 89%

結果
 ○全問正解 $C_1, C_2, C_3, C_4, C_5, C_6, C_7, C_{10}, C_{11}, C_{13}, C_{18}, C_{19}, C_{20}$ 13人
 ○③④の0の消し忘れ $C_8, C_{12}, C_{15}, C_{16}$ 4人
 ○九九の誤まり ③ $8 \times 5 = 35$ C_9 1人
 ○④の0の消し忘れ C_{14} 1人

計算のようすをみると、
 ○整数化した児童-----11名
 ○小数点を途中につけた児童-----8名
 これを予想の段階とくらべると次のようになる。

○いくらかずつ変化している。

予 想	小数	C_1, C_2, C_3, C_4	整数	C_5, C_8	整数	C_{20}	小数	C_7, C_{11}, C_{18}
		C_{10}, C_{14}, C_{15}		C_6, C_{13}		C_9		C_{12}, C_{17}, C_{19}
練 習		整数		整数		小数		小数

まとめ
次時予告

練習題 ⑥、⑦を次時の問題にする。

③ 小数第三位までの小数に、整数（1位～3位まで）をかける計算方法を理解させる。

前時に残された問題を確認して

1.312×6 3.26×23 のようにかけられる数の小数点以下のけた数がふえたときのかけ算のやり方は、どうなるだろうか。

これを、1つにしばらく事実を含む問題にかえた。

1 mの重さが、1.312 kgの鉄ぼうがあります。この鉄ぼう6 mの重さは、何kgでしょうか。

あとは、第1時の流し方と同じに展開させた。

(反応の記録は省く)

思考の移り変わりは、次のようであった。
(記録にでたもの)

第三時は、話し合いの混乱を避け、時間的余裕をもって、練習問題を多くやらせるために問題を生活的な問題に、おきかえた。

- 以下○題意をとらえる。
 ○自分なりに解決する。
 ○答えの正しいものをさがす。
 ○計算方法を見つけだす。
 ○練習題をする。